

### ●脱炭素経営に関するセミナー 開催報告

2024年12月3日（火）に、信金中央金庫 東北支店5階会議室にて、脱炭素経営セミナーを開催いたしました。  
宮城県地球温暖化防止活動推進センター、特定非営利活動法人環境会議所東北、東北環境パートナーシップオフィス、みやぎ環境カウンセラー協会、特定非営利活動法人環境ネットやまがた(EA21地域事務局)の共同主催にて、実施。宮城県内の中小企業の経営者や環境部署担当者などに向けて、講演及び事例発表を行いました。プログラムは以下の通りです。

- |                                       |                       |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 講演 1 「気候危機。脱炭素経営で地域も元気に」              | 環境省東北地方環境事務所          |
| 講演 2 「宮城県の事業者向け支援施策について」              | 宮城県環境生活部環境政策課         |
| 事業紹介 1 「しんきんグリーンプロジェクトについて」           | 信金中央金庫・東北支店           |
| 事業紹介 2 「従業員様向け省エネ診断（うちエコ診断）等の事例紹介」    | (公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク |
| 事業紹介 3 「みちのくEMS導入による環境経営の取組」          | NPO法人 環境会議所東北         |
| 事業紹介 4 「エコアクション21の基本的考え方」             |                       |
| みやぎ環境カウンセラー協会、エコアクション21地域事務局環境ネットやまがた |                       |
| 事業紹介 5 「省エネお助け隊による脱炭素経営への取組」          | NPO法人 環境会議所東北         |

### ●環境甲子園表彰式

2024年12月7日（土）、授賞式をトークネットホール仙台（仙台市民会館）にて開催しました。  
表彰式では、主催者代表挨拶、審査員長の講評、作品発表、表彰状授与を行いました。今回は、優秀賞2校、特別奨励賞3校、奨励賞5校が表彰式に出席しました。  
今年度も第25回環境甲子園を開催・募集中です。ぜひ、環境活動をしている高校がございましたら、事務局までご連絡ください。



- 応募資格 ①東北6県の高等学校生・高等専門学校生 ②個人・グループ、いずれも可
- 賞および賞金 最優秀賞1点 10万円 優秀賞 2点 5万円  
特別奨励賞5点 3万円 奨励賞 6点 1万円
- エントリー期間 2025年4月20日（日）～7月31日（木）
- 作品（成果品）応募期間 2025年6月20日（金）～8月31日（日）※当日消印有効
- 入賞発表 ホームページに公開（10月上旬頃を予定）
- 表彰式 2025年12月を予定

### 新任職員紹介

<佐々木 恵>  
4月1日より環境会議所東北に入職いたしました。これまで接客業、その後は大学の事務職として業務に携わってまいりました。まだまだ覚えることが多く、日々勉強中ですが、皆様に貢献できるよう、尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

<高橋 梢>  
4月14日より、環境会議所東北に入職いたしました。前職では障害者支援施設で事務員をしておりました。環境分野は初めてで、まだまだ分からないことばかりですが、一日も早く皆様のお役に立てるよう、一杯努めてまいります。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 編集後記

##### 令和の米騒動と持続可能な未来への提言

2025年、私たちは「令和の米騒動」を経験しました。政府の対応の遅さや、米の価格を知らない、購入したことがないといった発言が平気で飛び出す関係の稚拙さには、国民として憤りを感じずにはいられませんでした。「国民ファースト」で仕事をしてほしいと、心からそう願ったものです。

しかし、この騒動は大臣の交代という形でひとまず落ち着きを見せ、その素早い対応が、巨大な組織や農政の意識改革へと繋がる兆しを感じさせてくれました。国民のための行動を、私たちも後押ししていきたいと強く思います。

この一連の騒動を通して、私たちが改めて感じたのは、日本人にとって米がいかに深く根ざした存在であるか、改めて見直した次第です。一方で、最近郊外に足を延ばすと、かつて広大な田んぼが広がっていた場所が埋め立てられ、その面影すらない光景に心を痛めます。米農家の後継者不足による田んぼの減少は、単なる食料自給率の問題に留まらず、自然破壊にも繋がりがかねません。自給率の低い日本にとって、これは今後、本気で取り組むべき喫緊の課題です。

##### 30年の感謝を込めて

持続可能な社会の構築に微力ながら貢献できた30年、私もここで完全に幕を引くことになり、これが最後の編集後記となります。会員の皆様のおかげがあったからこそ、ここまで続けることができました。心より感謝申し上げますとともに、今後とも環境会議所東北の取り組みにご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。(Y・K)

発行・編集 NPO法人 環境会議所東北  
 〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6 TEL. 022-218-0761 FAX. 022-375-7797  
 Email : [kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp](mailto:kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp) ホームページ : <https://www.kk-tohoku.or.jp> (環境会議所東北)  
 ※Facebookもございますので、ご覧ください。



2025.7 No.40

### コメ問題から温暖化と生態系を考える

代表理事 猪股 宏(東北大学・未来科学技術共同研究センター・特任教授)



この2025年5月16日に本NPOの総会が終了致しました。会員の皆様のご協力のもと、昨年度に引き続き対面で開催し、議案もすべてご承認頂きました。この紙面を借りて、ご報告ならびに御礼を申し上げます。本NPOの活動ですが、令和7年度においても例年同様「みちのくEMS」を中心とし、みやぎGNP、環境甲子園を実施します。

さて、この巻頭言を・・・と考えていると、ニュースでは「令和の米騒動」というタイトルの報道が連日目に入ってきました。この米騒動、単なる流通米の不足ということではなく、非常に多くの環境問題が絡んでいるようです。

不足しているなら、増産すればよいのではないかと、という問いが頭に浮かびますが、休耕田あるいは転作してきた水田を水稲米用にもどすには、土壌の性質を調べながらの作業となるということです。土壌はその作付けに対応した特性に変化し、関連する生態系も相応に適応して変化するのが自然の摂理なのでしょう。さらに、報道によれば、平均気温の上昇により、稲の生育状況が変化するとともに関連する生態系も影響され、稲病気や害虫被害も以前とは違ってきているようです。となれば、休耕田の転換を図っても、収穫の増産には直結しない可能性が少なくないと理解できます。温暖化に応じた稲作を、これを好機として積極的に推進するような施策が望まれます。

ここで温暖化の農作物や生態系への影響を検索してみると、  
 「農作物：気温の上昇や降水量の変化が農作物の生育や収穫に影響を与えます。特に干ばつや洪水、異常な気象条件が農作物の生産性を低下させます。」  
 「生態系：気温の上昇や降水量の変化により、植物や動物の分布や生息地が変化し、生態系のバランスが崩れます。」とありました。その他にも多くの解説がなされていますが、気温・水温上昇+降水量変化が誘因因子とされているものが多いようです。海での海藻枯れも水温の影響が・・・とされていますが、その間に複雑なる生態系の影響があつて磯焼けなどが生じているのです。最近耳に入った例ですが、汽水域での水産資源では、温暖化→塩分濃度→微生物・プランクトン→魚・貝・海藻という循環にて、徐々に影響が拡大するのが判明してきているとのことです。同じことが、海、山、田畑にも言えるのでしょうか。単純なる2つの要素間での因果関係に終始し、それへの対策をとったとしても、それら間にある多くの循環・生態系の影響には手遅れという事態になってしまうだろうことが認識できます。鳥瞰的視野の重要性がわかります。最近の自身の興味からの推論を勝手に書かせて頂きましたが、自分自身は些細な点も無視せずにその影響範囲を考えて環境行動を実践するというのを再認識したわけです。会員の皆様にも、時々思い出して頂ければ幸いです。

### ●第28期総会開催

第28期2025年度通常総会を、2025年5月16日（金）にマックスマクタスビル3F会議室にて開催いたしました。猪股宏代表理事の挨拶の後、直ちに議事に入り、新任理事・監事、事務局体制等を報告した後、第1号議案 2024年度事業報告ならびに決算報告、第2号議案 2025年度事業計画案ならびに予算案について、質疑応答の後、すべて承認されました。

また、長年環境会議所東北に尽力されてきた山岡特別顧問と大久保監事が退任するため、ご挨拶をいただき、花束を贈呈しました。その後、情報交換会を開催し、会員同士の交流を深めました。



総会の様子



情報交換会



花束贈呈

新理事紹介



株式会社サンユウ 代表取締役 佐藤 向哉 氏

プロフィール
1993年 北海学園大学経済学部卒業
NEC関連企業入社後、(有)三友設備(現(株)サンユウ)に入社
現場作業員から始め、平成16年代表取締役に就任。2011年の震災時には会社所有の消防車により病院等の施設へボランティアで飲料水を運搬し、仙台市水道事業管理者より感謝状を受ける

2025年2月に開催された理事会で推薦され、今年度より「特定非営利活動法人 環境会議所東北」の理事としてその任に当たることとなりました。佐藤 向哉 と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。当団体において二十数年にわたり監事として尽力された(株)三森コーポレーションの大久保相談役の強い推薦もあり、又、理事の中に「みちのくEMS」を取得した企業出身者がいないという点から、私が推薦されたものと理解しています。1970年に北海道札幌市で生まれ、25歳でコンピューター会社(営業職)を退社するまで札幌に居りました。学生時代は時間があれば北海道内を放浪し、帯広に馬に乗りに行ったり、スキューバダイビングのライセンスを取得して、真冬の積丹半島や沖繩などに潜りに行ったり、学生ならではの時間を満喫して過ごしていました。会社員退職の後、当時バブル景気の波に乗り仙台にて営業していた実家の衛生設備業を継ぎ早30年、今に至ります。

現在弊社では環境省が推奨するNet Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) (略称ZEB) のプランナーを昨年(2024)取得し、今年(2025)完成した社屋においては、年間熱負荷係数(断熱性能:BPI)において基準値の53%、1次エネルギー消費量(省エネ性能:BEI)において基準値の42%を達成し、建物として省エネを達成したことを証明する「ZEB Ready」の称号をいただきました。今後は太陽光パネルの設置等、エネルギーを創出(創エネ)する取り組みを行い、さらなるZEB化を進めていきます。

また「みちのくEMS」の取り組みに関しましても、審査員・評価員の指導を受けながら、当社の事業に寄添った環境マネジメントを策定し、いままで個人個人の知識に頼っていた各リスクマネジメントが文書化され数値化されることによって、社員の意識付けが出来るようになりました。年度ごとに「環境目標達成計画書」を作成し実践しています。

先月開催されました当会の2025年度通常総会において、「今年も、みちのくEMSを中心に活動していく」と猪股代表理事からご挨拶がありました。普及活動においては公官庁における総合評価で加点があるという以外に、なかなかアピールが難しくありますが、例えば国が推進する2050年のカーボンニュートラルに向け、建物においてはZEB化を推し進めているように、今後成長が期待される14分野のなかの一つ(例えば資源循環関連等)にこの「みちのくEMS」の取組が絡むことがあれば大いに普及が進むのではないかと期待しています。

さて、この原稿を書いているのは2025年6月ですが、今月の1日より厚生労働省より「熱中症対策」が義務化されました。熱中症というのは個人の体調管理が要因になりうることから会社・組織が対策するのも限界はありますが、我々建設業が圧倒的に死者数が多いということから、各社(各現場)様々な対策を取り始めました。現場内休憩所にはエアコン及び、製氷機の設置は当たり前になりました。また作業員は必ず空調服(冷却服)を着用し、ミスト付き扇風機や、自動販売機の冷たい飲料品を市場の半額で設置する現場も現れました。いずれにしてもその生産に膨大なエネルギーを費やした製品を使い対策をしています。環境に対応するために更なるエネルギーを消費しています。「脱炭素を目指しますが、人命第一だからそのためのエネルギー消費はしょうがない」ということでしょうか。このように「熱中症対策」1つをとっても何を優先し、何を犠牲(先延ばし)にするか、環境問題に取り組むということは取捨選択が非常に難しいです。しかしながら何かがおかしいと思うこと(この矛盾)こそが環境問題に取り組む1歩だと改めて感じています。これからも環境問題に関心を持ち、さらなる知見を広げながら「環境会議所東北」の理事として、より多くの方々に環境保護及び環境マネジメントの重要性を伝えられるよう尽力してまいります。

2025カーボンニュートラルに関する図表とZEB認定書のイメージが示されています。



2025カーボンニュートラル関連図



ZEB認定書

新監事紹介



日鉄エンジニアリング株式会社

環境・エネルギー営業本部 環境・水資源化営業部 環境営業室
シニアマネジャー (東北営業総括) 柏崎 洋樹 氏

リサイクルできますので最終処分場に埋め立てる物がごく僅か、という環境に優しい商品です。しかし溶かした物から重金属を取り除くために使うコークスから二酸化炭素が出るという課題もあります。これを新技術により半分以下に減らし、残った半分のコークスの原料を石炭からバイオマス資源に切り替えることで「カーボンニュートラル」を実現することに取り組んでおります。また、ごみを溶かしてできた物は土木資材へのリサイクルが主でしたが、最近に国に「肥料」として認定していただき、すでに販売を始めております。こうした活動で大きな意味での資源循環型社会の実現に寄与できると考えております。廃棄物処理に限らず、環境に関する課題は地域ごとに様々です。その解決に取り組む環境会議所東北の一員として、今後も関係する数多くの専門家、実務家などの知見とご支援を頂戴しながら、活動してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

この度、環境会議所東北の監事を拝命いたしました柏崎洋樹と申します。平成12年、派遣先の東北経済連合会にて産業廃棄物のリサイクルを調査していた際に、当会議所とのお付き合いが始まりました。当時は宮城大学の天明教授が代表理事でした。その後1年間監事を勤めておりましたので、四半世紀ほど過ぎて再び監事を勤めることになった次第です。現在は日鉄エンジニアリング株式会社にて環境プラント営業を担当しております。一言で言えば、家庭から出たごみを焼却もしくは熔融するプラントを、市町村等にご提案し導入していただくことで、地域の環境に関する課題の解決にお役に立つことです。主力の熔融炉は高温でごみを溶かします。溶かした物は100%

会員企業紹介

株式会社agentlab

代表者名: 浅比 浩史 (あさひ・ひろし)
〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-6-23
今野ビル2F
連絡先: h.asahi@agent-labo.com
設立: 2017年
URL: https://www.agentlab.biz/

地域企業の環境経営と人づくりを支援する、GXの実践パートナー

株式会社agentlabは、「人が変われば、会社が変わる。会社が変われば、地域が変わる」をテーマに、仙台を拠点に全国の中小企業の「トランスフォーメーション(変革)」を支援するコンサルティングファームです。GX(Green Transformation)とDX(Digital Transformation)を軸に、自律的に動ける人材と組織づくりを通じて、持続可能な地域社会の実現を目指しています。

代表の浅比浩史は、環境省認定の「脱炭素アドバイザー」および「環境経営士」として、経営視点と現場実務の両面から企業を伴走支援。特にプロジェクト立ち上げ時に「火を起こす」ファシリテーションを得意とし、「攻め・守り・共感」の3つのGXアプローチを軸に、地域企業が自らの可能性を見出し、変革を自分ごととして進められるようサポートしています。

今後10年間で政府は20兆円、官民合わせて150兆円超のGX投資を計画。Scope3排出量の開示義務化やカーボンプライシングの導入、化石燃料課金制度の施行など、GX対応は大企業だけでなく中小企業にとっても喫緊の経営課題となっています。



脱炭素経営がゲームで体験できる・参加メンバー同士で楽しく盛り上げられる

agentlab. 2025 All Rights Reserved. confidential

一方で、GX関連製品やサービスの市場は急拡大しており、地域企業にとっても新たな事業機会や人材育成のテーマとして捉え直す好機でもあります。

そうした中、当社の主力サービスの一つが、自然電力株式会社との共同開発による体験型「脱炭素経営ゲーム」を活用したリスクリング研修です。参加者はサイコロを振りながら経営判断を行い、CO2排出の見える化や削減行動、利益とのバランスを体感的に学びます。「GXを初めて「自分ごと」として捉えられた」「社内で実践したい」といった声も多く、アンケートでも高い満足度を記録しています。

また、地域ごとのGX推進事例を共有する「GX勉強会」も主催しており、2024年以降は宮城県・函館市・栃木県などで定期開催。地方銀行や自治体、中小企業が一体となってGXを進めるコミュニティ形成にも力を入れています。

これからのGXは「CO2を減らす」だけでなく、「新しい価値をつくる」時代。agentlabは、知識の提供にとどまらず、現場の変革を後押しする仕組みと人材育成を通じて、地域の未来を共に切り拓く実践パートナーであり続けます。

●東北地区 高校生SDGsセミナー 開催報告

2024年8月1日(木)に、「TKPガーデンシティ仙台」ホール21A(オンライン兼用)にて、東北地区高校生SDGsセミナーを開催いたしました。地域の課題探求に取組む東北地方6県20校の高校生に対して、「生物多様性とSDGs~高校生同士のSDGs意見交換会」のテーマのもと、持続可能な地域循環共生社会形成に向けた研修が行われました。当会は、環境再生保全機構から業務委託を受けて運営をサポートし、参加校の選定や高校との連絡調整、当日の運営サポート、ワークショップへの講師派遣などを行いました。東北大学の熊谷 将吾 准教授より、環境に関する話題提供ならびに基調講演「ともに考えよう!プラスチックリサイクル」を行っていただきました。



- 参加高校: 青森県立柏木農業高等学校、青森県立三本木農業恵拓高等学校、青森県立名久井農業高等学校、八戸工業大学第二高等学校、秋田県立新屋高等学校、(会場) 秋田県立大曲農業高等学校、岩手県立久慈東高等学校、岩手県立東野緑峰高等学校、岩手県立花巻農業高等学校、宮城県南三陸高等学校、宮城県利府高等学校、福島県立福島西高等学校、山形県立山形西高等学校、山形県立米沢興譲館高等学校、(オンライン) 秋田県立能代松陽高等学校、宮城県古川黎明高等学校、山形県立山形西高等学校、鶴岡工業高等学校



●中小企業のための省エネ・炭素経営支援セミナー 開催報告

2024年9月10日(火)に、仙台銀行ホール「イズミティ21」2階会議室にて、宮城県内の中小企業に向けて、省エネ・炭素経営支援に関する講演を行いました。東北経済産業局、環境省東北地方環境事務所、宮城県、仙台市より、それぞれの施策を紹介いただくとともに、(株)LIXIL様、医療法人社団洞口会様より、断熱回収について、事例をご紹介いただきました。